

平成 24 年 3 月 1 日

上越市長 村山 秀幸 様

浦川原区地域協議会  
会長 藤田 宏禎

### 浦川原区の小学校のあり方に関する意見について

上越市地域自治区の設置に関する条例第 7 条第 1 項に基づき、「浦川原区の小学校のあり方」について自主的に審議した結果、下記のとおり意見書を提出します。

#### 記

浦川原区内の小学校は現行、中保倉小学校、下保倉小学校、末広小学校の 3 校が配置され、浦川原区児童の教育環境を支え、児童は学業に励んでいます。

しかしながら、浦川原区の小学校は少子化により児童数が減少し、学校の小規模化が進行しており、上越市学校適正配置審議委員会が平成 22 年 2 月 24 日、上越市教育委員会へ提出された「上越市学校適正配置の基本的な考え方について（審議のまとめ）」の意見書においても、浦川原区の中保倉小学校、末広小学校は小規模校として位置づけ、小学校のあり方について喫緊に検討が必要になると指摘しています。

浦川原区地域協議会は自主的に浦川原区の小学校 3 校 P T A や地域住民に対して、浦川原区の小学校のあり方について意見収集を行った結果、別添のとおり報告します。

これらの意見や浦川原区の児童数推移、上越市立小中学校適正配置基準を踏まえて、今後の浦川原区の小学校の方向性は地域住民の意向を十分配慮し、小中一貫校方式など、上越市学校適正配置審議委員会が小規模校として指摘する末広小学校、中保倉小学校のよりよい教育環境の整備方策として検討を強く望みます。

## 浦川原区内の小学校のあり方について 地域住民の意見

### 地域懇談会における地域住民の主な意見

項 目	意見内容
児童数について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区外の子どもを持つ家族が浦川原区に住む環境づくりを進め、児童数を増やすことを考えていただきたい。</li> <li>・児童数が少なくても学校の先生はよく面倒を見てくれ、地域の子は我が子のように面倒を見られる。</li> <li>・多くの児童の中で色々な経験をさせたい。</li> <li>・下保倉小学校は各学年 20 名程度である程度児童がいるため、行事を行うとしても児童数が少なく困っているという状況ではない。</li> <li>・児童数の減少のみを理由とする小学校の統廃合は行わない方がよい。</li> </ul>
小学校のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複式学級が設置されたからと言って小学校を統廃合するという考えはない。</li> <li>・子どもへの教育は、現行の複式学級で十分対応できるのではないかと思う。</li> <li>・小学校の統廃合は浦川原区の地区でも考えに温度差があると思う。</li> <li>・小学校の統廃合は行わず、各地区 1 校を存続させたい思いがある。</li> <li>・小学校の統廃合を行う場合は、児童数の現状と今後の推移をきちんと調べ、個々にヒアリングを行う必要がある。</li> <li>・小学校の統廃合を行ったところが現在どうなっているのか知りたい。</li> <li>・小学校の統廃合は、大人の視点だけではなく、子どもの視点も含めて、議論する必要がある。</li> <li>・地域コミュニティづくりでは小学校が核となっているため、小学校の統廃合は反対であるが、子どもや保護者、PTA の考えを踏まえて小学校の統廃合は考えるべきだ。</li> <li>・下保倉小学校が統廃合されると思っていない。小学校が統廃合する場合でも、末広小学校や中保倉小学校が下保倉小学校へ統合されると思っている。</li> <li>・小学校の統廃合によりバス通学をする児童が増え、運動不足の児童が増えるのではないかと懸念する。</li> <li>・保育園から中学校の 9 年間、安塚高校へ入学することも考慮すると 12 年間、クラス換えがなく同じ児童、生徒である場合、児童、生徒間の仲間意識が強くなるものの、競争意識が薄れてしまうのではないかと思う。</li> </ul>
学校区について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦川原区内の小学校区の見直しをしてはどうか。</li> <li>・小学校の統廃合の話の前に、学校区の設定ができてよいのではないか。</li> <li>・浦川原区の現行小学校 3 校を 1 校へ統廃合とした場合、1 学年 1 学級のみで学級編成しか組めないのであれば、児童の競争意識の促進を図るためにも、学校区は浦川原区のみではなく、三和区美守や安塚区や大島区の小学校との統廃合も考慮し、1 学年 2 ～ 3 学級としてはどうかと思う。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園や小学校は徒歩で通える距離がよい。</li> <li>・複式学級が悪いとは思わない。</li> <li>・子どもたちを育てるには地域は大事である。</li> <li>・以前は学校を拠り所としていた中、保護者の教育への考え方が変化したのか、地域懇談会の参加者が少ない。</li> </ul>

フォーラムにおける地域住民の主な意見

団体名等	意見内容
中保倉小学校 P T A (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校区の見直し、校区は浦川原区に限らず、大浦安、三和区も含めて、小学校区の見直しではどうかと考えるが、児童数が少ない小学校は一層児童数が少なくなるのではないかと懸念している。</li> <li>・小学校は地域的な問題があるため、即統廃合という考えとはいかないが、毎年、毎年、複式学級では困るという意見が多いと思う。</li> </ul>
下保倉小学校 P T A (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦川原区の小学校が統廃合となっても末広小や中保倉小が下保倉小と統合するイメージで、下保倉小がなくなると思っている保護者や地域の皆さんはいないと思う。</li> <li>・下保倉小は1学年18~20人程度であり、運動会や発表会などの行事は地域の皆さんからご協力いただきながら、各学年の個性を引き出し、複式学級ではできないことを行えているため、適正な人数と感じている。</li> <li>・浦川原区の小学校の児童数が今後も現状維持の場合はこのままでよいが、5年後の児童数が3校合わせて150人程度であれば、小学校の統廃合は小学校の管理費において無駄な経費も発生するため、早めに話を持ち出し、計画的に目標を掲げて進めてはどうかと思う。</li> </ul>
末広小学校 P T A (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私も複式学級で育ったが、一概に複式学級が悪いとは感じなかった。</li> <li>・末広小の今後の児童数は横ばい状態であるため、今後も末広小は地域とのつながりを持ち、子どもたちがよりよい学校生活を送ればよいと思う。</li> </ul>
下猪子田町内会 (個人と周囲の意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会の寄り合いでは、中保倉小は平成12年に改築をして10年程度経過したが、改築当時から児童は減少傾向にあり、行政の判断により中保倉小は改築された経緯がある。小学校の統廃合は反対であり、時期尚早ではないかという意見があった。</li> <li>・新年、消防団の出初式終了後の新年会において保護者である団員に小学校について意見収集をしたところ、多くの児童と仲間となり、競争意識もできるため、小学校の統廃合に一定の理解を示された。</li> <li>・統合となった場合、スクールバスによる通学となる。中保倉小が一番新しい校舎であるため、下保倉小と末広小が中保倉小へ統合してはどうかという意見があった。</li> </ul>
有島町内会 (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下保倉小の児童が今後減って行くことに驚いている。</li> <li>・小学校の統廃合は結論を押しつけるのではなく、保護者や地域の合意の上で進めるべきだと考えている。</li> <li>・児童の主体性や自主性、社会性が育ちにくい、教育上様々な問題が出てくるのではないかと考えているため、会長の意見は小学校の統廃合は進めるべきではないかと思う。</li> </ul>
山印内町内会 (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末広小の将来の児童数は現状維持される見込みであるため、小学校の統廃合にあせている人は少ないのではないかと思う。</li> <li>・小学校の統廃合は難しいが、子どもたちのため、教育環境の整備が大事であり、行政からのトップダウン式ではなく、ボトムアップ方式、PTAや地域の意見を十分反映される中で検討していただきたいと思う。</li> </ul>
横住町内会 (個人意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月影小学校閉校当時、非常に汗をかいた保護者がいたが、結果的に閉校が決まったのはトップの一声だった。</li> <li>・小学校が閉校しても、校舎を有効活用すれば、地域にとって明るい交流の場になると感じている。</li> </ul>
その他  会場の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちや保護者のことを考え、どこの小学校と統合しようとも、それが一番よい方法であるならば協力して行きたい。</li> <li>・小学校は児童が少なくなり自然消滅するよりも、今のうちに統合について話を進めてはどうかと思う。</li> <li>・保護者の意見集約が必要であるが、誰かが真剣にリーダーシップを取らないと前に進まないと思う。</li> <li>・小学校の小規模校問題よりも大規模校問題の方が課題ではないかと思う。</li> </ul>

## 中保倉小学校PTAからの情報提供

### 小学校のあり方について

- まずは、自治体としてはどのように考えているのか説明があるべきと思う。下地となるものがないと、こちらからも具体的な意見を出しにくいものである。
- 懇談会に多く出席を求め、意見がほしいのなら、統合の話が出ていることをもってアピールし、小学校のPTA総会などに出向いて話をすれば良いと思う。保護者が何も考えていないわけではない。
- 各地域によって温度差があるのはやむをえない。しかし、児童数推移をみれば危機感を持つべき地域は下保倉と思うが、その地域の方が統合に対してあまり積極的には考えていないように感じられる。長い目で見て考えていくと良いと思う。
- 教育は複式学級で十分対応できるとする意見があるが、実際に経験している身としては、少人数だからこそその良い点があると言われても、やはり単学年によるクラス編成が望ましいと思う。教員は一つの教室で二つの学年に対する授業を行わねばならなかったり、3年生で4年生の理科をやり、4年生で3年生の理科をやる、という逆転が起こり、教員にとっても児童にとってもややこしいカリキュラムにならざるを得なかったりしている。現場では大変な困難が強いられていると思う。
- 保育園は一つで友だちが多かったのに、小学校でいきなりクラスメイトが減るのはかわいそう。下保倉は友だちが多くていいなあ、と子どもは思っている。
- 犯罪が心配なので学校からは一人で下校しないように指導されるが、地区に子どもが一人しかいない所もある。その場合、迎えに来てくれと言われるが、祖父母が動けば行けるが行けない時もあるし、祖父母がいない家庭もある。統合されれば家の近くまでスクールバスで送迎してもらえるとと思う。安全面からみても、統合の良いところがある。
- 統合する前提として、スクールバスによる送迎を望む。地域によって差が出ないように、端々まできめ細かい対応をしてほしい。
- バス通学になると運動不足になるという考え方はどうかと思う。下校前に少し運動中心の自由遊びの時間を設けるなど、対策を考えられるのではないだろうか。
- 近隣の区の学校との統廃合をという方向も考えられるが、あまりに遠かったり、生活区が違ったりすると、PTAや行事で集まりにくいかもしれない。
- 安塚区はずいぶん前に一斉統合しているので、参考になると思う。大浦安の各学校のPTA役員が集まって意見交換を行うのも良いのではないか。
- 廃校になる校舎の後利用についても、近隣の区の例が参考になる。地域に小学校がないとさびれるという考えもあるが、逆転の発想で、これをきっかけに地域の積極的な取り組みを生み出していければ、と思う。

## 浦川原区地域協議会 小学校のあり方に対するこれまでの取り組みについて

## 課題提起の理由

- ・浦川原区地域協議会は平成 22 年度において浦川原区に所在する中保倉小学校、末広小学校の児童数が 50 人以下である現状に注視し、今後、浦川原区の小学校配置の方向性について問題提起していた。
- ・平成 23 年 1 月 21 日、上越市教育委員会の市立小学校の配置に関する方針について確認するため、上越市教育委員会の職員を招き、市の小学校のあり方勉強会を開催し、上越市学校適正配置審議委員会が平成 22 年 2 月 24 日に上越市教育委員会へ提出された「上越市学校適正配置の基本的な考え方について（審議のまとめ）」の意見書の中で「望ましい教育環境の実現に向けた喫緊の課題」として浦川原区配置の「末広小学校」「中保倉小学校」は「学校の適正配置基準よりも小規模校であり、現在または今後、児童数の増加が見込めずに複式学級ができる学校であり、学校のあり方について検討が必要になる」と指摘していることを受け、浦川原区の小学校のあり方は地域の課題と位置付けた。

## 意見・要望事項

- ・浦川原区地域協議会では、住民の意見収集を行った結果、浦川原区の児童数推移、上越市立小中学校適正配置基準を踏まえて、今後の浦川原区の小学校の方向性は地域住民の意向を十分配慮し、小中一貫校方式など、上越市学校適正配置審議委員会が小規模校として指摘する末広小学校、中保倉小学校のよりよい教育環境の整備方策を検討することを望む。

## 地域協議会の権限との関連性

- ・浦川原区の小学校の管理については上越市地域自治区の設置に関する条例第 7 条第 1 項第 2 号に規定する「地域自治区の事務所が所掌する事務に関する事項」に該当する。

## これまでの取り組み内容

- ・浦川原区地域協議会は平成 22 年度において浦川原区に所在する中保倉小学校、末広小学校の児童数が 50 人以下である現状に注視し、今後、浦川原区の小学校の存続がどうなるのか問題提起していた。
- ・平成 23 年 1 月 21 日、上越市教育委員会の市立小学校の配置に関する方針について確認するため、上越市教育委員会の職員を招き、市の小学校のあり方勉強会を開催し、上越市学校適正配置審議委員会が平成 22 年 2 月 24 日に上越市教育委員会へ提出された「上越市学校適正配置の基本的な考え方について（審議のまとめ）」の意見書の中で「望ましい教育環境の実現に向けた喫緊の課題」として浦川原区配置の「末広小学校」「中保倉小学校」は「学校の適正配置基準よりも小規模校であり、現在または今後、児童数の増加が見込めずに複式学級ができる学校であり、学校のあり方について検討が必要になる」と指摘していることを受け、浦川原区の小学校のあり方は地域の課題と位置付けた。
- ・浦川原区地域協議会は地域住民から「浦川原区の小学校のあり方」について意見を伺うため、地域住民との意見交換会を浦川原区の小学校が配置されている 3 地区で各 1 回、フォーラムを平成 24 年 1 月 22 日に開催し、地域住民の浦川原区の小学校のあり方に対する意見収集に努めた。

## 地域住民の意見内容

- ・地域住民の浦川原区の小学校のあり方の意見は別紙のとおりであり、「浦川原区の小学校は統廃合を行い、多くの児童の中で学ばせたい」、「地域振興の中心となる小学校は必要であり、浦川原区の小学校の統廃合は反対」など、地域住民の小学校のあり方については様々である。